

## 第11回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

- |        |   |             |
|--------|---|-------------|
| 1. 日 時 | 平成27年10月6日(火)   | 18:30~20:05 |
| 2. 会 場 | エコセンター2000  | 3階 学習室A     |
| 3. 出席者 | 長澤委員(座長)、服部委員、本間(典)委員(副座長)、高橋委員、<br>成瀬委員、本間(文)委員、乾委員、深川委員、明神委員、大泉委員 |             |

(高井課長)

本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

定刻となりましたので、これより「第11回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会」を開催いたします。

はじめに、懇談会開催にあたり川田副市長よりご挨拶申し上げます。

(川田副市長)

みなさんこんばんは。網走市副市長の川田でございます。

本日は大変お忙しい中にもかかわらず定住自立圏懇談会にご出席いただき、ありがとうございます。

また、皆様方におかれましては、それぞれのお立場で網走市、そして大空町の地域振興等にご尽力いただいておりますことに改めて厚くお礼申し上げます。

今回、関係の団体から18名の方々のご推薦をいただき、また、公募委員として2名の方にご就任いただきました。

公私とも何かとお忙しい中、大変恐縮でございますが、改めて、ご協力をいただきたいと思っております。

今、地方創生という言葉が盛んに取りざたされておりますが、現在、人口減少社会や少子高齢化社会に対応するために、各自治体、網走も大空もそうですが、地方創生の総合戦略を立ててそれを実行していくことが求められています。

今現在、両市・町それぞれ策定作業に鋭意取り組んでおりますが、その中においても地域間の連携でありますとか広域連携といったものが非常に重要な要素となっております。

この定住自立圏構想というのは、そうした地域間連携の一つの形ではありますが、いわゆる地域住民の命と暮らしを守るために圏域全体でその機能を確保するといった取組でございまして、そうしたことにより人口の維持・定住を促進していくという政策であります。

網走市と大空町につきましては、平成23年に定住自立圏構想の連携協定を結びました。この連携協定に基づいて、「網走市大空町定住自立圏共生ビジョン」を作ったわけですが、その共生ビジョンが今年度で最終年度となっております。

そうしたことから、今回、皆様方には平成28年度から平成32年度の5カ年の第2次の共生ビジョンの策定について色々ご検討いただければと考えております。

この共生ビジョンにつきましては、圏域の将来像や、両市町が連携・協力する具体的取組などを掲載することとし、行政運営の指針ともなっております。こうしたものでありますから、委員の皆様からご意見を伺いながら、策定作業を進めていきたいと考えております。委員の皆様、幅広い見地・視点から、忌憚のないご意見をいただいて、ビジョンが策定できればと考えております。

これからの懇談会を通じて策定に向けた作業を進めていきたいと思っておりますので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。簡単でございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

(高井課長)

続きまして、今回は、委員の改選がございましたので、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。

私の左側から、女満別中央病院の服部委員でございます。網走市社会福祉協議会の本間委員でございます。大空町社会福祉協議会の高橋委員でございます。網走市社会教育委員の成瀬委員でございます。大空町社会教育委員の本間委員でございます。オホーツク網走農業協同組合の乾委員でございます。東藻琴観光協会の深川委員でございます。網走バスの明神委員でございます。東京農業大学の長澤委員でございます。公募委員として大空町在住の大泉委員ですが、少し遅れて参加と伺っております。

なお、本日、網走厚生病院の藤永委員、網走商工会議所の川畑委員、大空町商工会の張山委員、西網走漁業協同組合の尾居委員、女満別農業協同組合の菅野委員、網走市観光協会の田上委員、網走観光交通の小村委員、公募委員の網走市在住の中島委員はご都合により欠席されております。

以上で委員の皆様のご紹介を終わらせていただきます。

続きまして事務局の照会をさせていただきます。

私は網走市企画総務部企画調整課の高井でございます。よろしくお願いいたします。大空町総務課の林参事でございます。同じく、総務課企画グループの鈴木主査です。網走市企画調整課企画係の日野係長です。今、席をはずしてはいますが、同じく、企画係の和田主査です。

それでは、引き続きまして、次第3の「座長及び副座長の選出」に入らせていただきます。委員の改選がありましたことから、改めて座長及び副座長を選任いたしますので、座長選出までの間、副市長が議長として議事進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(副市長)

それでは座長選出までの間、私が議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いたします。それでは、座長の選出につきまして、お諮りいたします。

「懇談会設置要綱」では、座長は委員の互選にて定めることとしております。どのように執り進めればよろしいか、ご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

(明神委員)

事務局で案があればお示しいただきたい。

(副市長)

事務局から提案というご意見がありました。よろしいでしょうか。

(一同)

はい。

(副市長)

それでは、事務局から提案をお願いします。

(高井課長)

それでは、事務局より座長の選出の案を提案させていただきます。座長として東京農業大学生物産業学部の長澤委員を推薦させていただきます。

(副市長)

ただ今、事務局から長澤委員を座長にという提案がありました。この提案でよろしいでしょうか。

(一同)

はい。

(副市長)

それでは長澤委員を座長として選任することとしたいと思いますので、長澤委員、座長の席へ移動をお願いします。

<長澤委員座席移動>

(副市長)

それではここで長澤座長に一言ご挨拶をいただきたいと存じます。

(長澤座長)

東京農業大学の長澤でございます。

前回に続いて懇談会メンバーということでよろしく申し上げます。今、副市長さんがおっしゃりましたが、地方創生というのが一つの目玉、政策の柱となっていますし、昨日今日の新聞では、またまた大筋合意ということで、今日、農業関係の委員さんもうらっしゃいますが、農業関係だけではなく色々な地域の生活レベルも含めて、どういう形になるか、新しい地域をめぐる課題なり問題をつきつけられている、そういう時期に新たにビジョンを我々が検討するということも念頭に置きながら定住自立圏共生ビジョンをこういったものの検討、忌憚ないご意見をうかがいながら平成28年4月にスタートする5カ年のビジョンを、建設的なご指摘をいただきながら策定作業を進めていたいと思いますので、ご協力をよろしく申し上げます。

(高井課長)

ありがとうございました。

この後の進行は長澤座長にお願いしたいと思います。

なお、川田副市長は用務の都合のためここで退席させていただきます。

(副市長)

どうぞよろしく申し上げます。

(長澤座長)

それでは、懇談会設置要綱の定めによりまして、私が議長を務めさせていただきます。引き続き、副座長の選出に移らせていただきます。

「懇談会設置要綱」第5条の規定により、座長が指名となっておりますので、私の方から指名させていただきます。副座長さんは、網走市社会福祉協議会の本間委員にお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

(長澤座長)

それでは、議事の前に副座長の本間委員から一言申し上げます。

(本間副座長)

網走市社会福祉協議会の事務局長をしております本間と申します。力不足ではありますが、座長の補佐として努めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

(長澤座長)

それでは、議事次第に沿いまして、4番「議事」(1)、最初に1つ目「定住自立圏構想、共生ビジョンおよび懇談会」の趣旨説明を事務局からお願いします。

(高井課長)

それでは、はじめに「定住自立圏構想」、「共生ビジョン」及び「懇談会の趣旨」について説明させていただきます。

「ビジョンたたき台」の1ページをご覧ください。定住自立圏構想とは、総務省が推進している施策であります。現状の課題として人口減少、少子高齢化が進展する中、地方の生活基盤が衰退し、将来的に単独の市町村だけでは、フルセットの行政サービスを提供できなくなることが懸念されることから、住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域として捉え、「定住」に必要な生活機能である医療、福祉、教育、公共交通などを圏域全体で確保するとともに、「自立」のための経済基盤や地域の誇りを醸成し、魅力あふれる圏域を形成していくことを目的とするものです。

実際の定住自立圏は、今ご説明させていただいた構想に基づき、中心市と周辺市町村が協定を締結し、形成される圏域です。中心市は生活に必要な都市機能が一定程度集積し、周辺市町村に都市機能が及んでいる都市でありまして、人口、昼夜間人口比率などの要件を満たすことが必要とされ、北海道では平成27年の3月末現在で、18の都市が要件を満たしており、そのうち網走市を含め14の自治体が中心市としての宣言を行っております。

また、周辺市町村につきましては、中心市に近接するとともに、経済、社会、文化、そして住民生活等が密接な関係にある市町村とされており、このほか中心市への通勤通学割合などの要素から判断することとなっております。

これを受け、網走市では、平成22年9月に中心市の宣言を行い、周辺自治体との協議を経まして、大空町との間で、平成23年3月23日に定住自立圏形成協定を締結いたしております。協定の内容につきましては、お手元に協定書の写しをお配りしておりますが、定住に必要な生活機能の確保に向けて、3つの政策分野と各分野における取組について規定されております。

また、定住自立圏形成の目的・メリットの一つとして、国が推進する各種事業の採択にあたっては、事業にもよりますが、優先的に採択されるなどの優遇措置があり、各分野での事業実施に係るハードルが下がることなどがあげられます。

ここまで、定住自立圏構想の概要について、説明させていただきました。引き続き、共生ビジョンおよび懇談会の趣旨を説明させていただきます。

まず、定住自立圏共生ビジョンについてですが、これは、総務省の定住自立圏構想推進要綱の中で定められており、協定により形成された圏域全体に係る、将来像や、おおむね5年間にわたる各市町村の具体的取組を記載する事業計画の位置付けとなります。

また、前述の推進要綱には、この共生ビジョン策定にあたっては、地域の関係者などからなる懇談会での検討を経たうえで、当該市町にて協議をすることとされており、毎年度、所要の変更を行うものとされております。

これを受けまして、網走市と大空町におきましても、平成23年3月の協定締結後、懇談会を設置し、公募を含め各分野からご就任いただいた委員の皆様のご意見を頂戴しながら、平成23年9月に網走市大空町定住自立圏共生ビジョンを策定いたしました。また、毎年度の所要箇所変更といたしまして、これまで4回の変更を行ったところでございます。このビジョンの目標年度が平成27年度までとなっていることから、今回、ご就任いただいた委員の皆様のご意見を懇談会で伺いながら、新たに「第2次網走市大空町定住自立圏共生ビジョン」の策定に向け作業を進めてまいりたいと考えております。

「定住自立圏構想、共生ビジョンおよび懇談会の趣旨」につきましては、以上でございます。

(長澤座長)

只今、「定住自立圏構想、共生ビジョンおよび懇談会の趣旨」について、事務局から説明がありました。

今回、委員さんも何人かお変わりになっていますが、平成23年度から平成27年度までの5年という一つの期間が終わり、また平成28年4月から5年間の構想、ビジョンを策定していくという懇談会だということでございますが、基本的なことにかかわりますので、ご質問、ご意見ございますか。

(乾委員)

今回、これから第2次ビジョンということですが、第1次では具体的にどのような成果があったのでしょうか。

(長澤委員)

後ほど説明があると思いますが、今回の資料、19ページ、第3章にこれまでの取組状況を箇条書きですが、こういうことをやっていこうとこの場で決めまして、その事に関してそれがどうなったのか、それを踏まえて今後どうするのかという、5カ年を踏まえた今後に向けた整理はこの中で十分ではないかもしれませんが、やっておりますので、その中で、今回、新らしく第3章が加わっておりますので、ご指摘いただきたく思います。よろしいでしょうか。

新しく委員になられた成瀬委員いかがでしょうか。

(成瀬委員)

内容に関してはそれぞれの地域で取り組んでいることなのかなと思いますが、あえ

て大空町と網走市で取り組んでいく意味が良く分かりません。

(長澤座長)

平成23年に第1次ビジョンを作りました。その前に「平成の市町村合併」を行った自治体には税制や過疎債など色々な優遇措置が取られ、合併しない市町村に関しても色々な形で国として、総務省としてサポートしていくと、それで道内では、網走市など14の自治体が中心市を宣言して周辺の市町村と一緒に広域圏域で定住自立圏共生ビジョンを作るという作業が進められてきていまして、委員の皆様の選出にあたっては住民生活にかかる全て、医療から福祉、教育、産業振興、広域観光、地域公共交通、人材育成に公募委員というメンバーで構成されています。

そもそもの話として中心市が網走市に対して、周辺市は大空町だけだったのか、他の町の話はあったのですか。

(高井課長)

異動してきたばかりで、過去の経過を全て承知しているわけではありませんが、大空町さんと協定を締結するまでに色々な動きがあった上で、中心市として賛同いただける町、5万人以上の人口があることと昼夜間人口比率が1以上というような密接な関係がある町と将来的にフルセットの行政サービスという言い方をしていますが、公共施設を今のままの規模を維持するというのは難しくなってくるのでそれを補うような関係を出来ないかという話を進めていったということです。

(長澤座長)

それならなぜ合併しなかったのか、という話は以前もありましたが、それはそれぞれの市町の特性もあり簡単な話ではないのですが、あわせて補助事業ですとかが優先的に採択されるというメリットもあるといおうことで、住民生活を様々な面で豊かにしていくという狙いが基本になるということになると思います。

(高井課長)

先ほどもご紹介いたしました、公募委員として大空町在住の大泉委員でございます。

(大泉委員)

遅れて申し訳ありません。大空町在住の大泉でございます。自営業を営んでいます。どうぞよろしくお願い致します。

(長澤座長)

他にどうでしょう。安部政権になってから、地方創生ということで、首相官邸直轄

で大臣まで置いてやっています。そういう部分だとか色々な形で錯綜している。今度も地方版総合戦略を作るということで各市町村やっていますし、それとの整合性もありますし、その中で広域連携とか、行政として広域圏域として地域の住民生活を豊かにしていこうということもありますが、直接的な繋がりはないにしても現場ではかなり錯綜していますし、色々な事業を展開しているのですが、なかなか地域住民にPRされていない、認知されていない。色々な形で様々な分野にかかわってやっているわけですが、十分に周知されていないということが前回も意見がありました。上手く調整しながら末端、現場でやっていかざるを得ない。ということで今回は2つの市と町で定住自立圏構想を検討し、共生ビジョンを作っていく。平成28年4月1日から5年間のものを作っていくという懇談会です。

(本間副座長)

当初、周りの3町についても仲間に入ろうということで、声はかけたと思うのですが、時期的なものとかで最終的にはこの大空町と網走市で進めていこうということになったと私も聞いているところです。基本的には補助事業などの採択に有利になるということがまず一つあるのかなと思います。

(長澤座長)

協定の締結から5年が経っていますので、少し振り返りながら、再確認しながら定住自立圏とは何かとか共生ビジョンはどのように作っていくのかということ踏まえながらとり進めてまいりたいと思っています。

ここまで事務局の定住自立圏の趣旨説明に関してはよろしいでしょうか。

(一同)

はい。

(長澤座長)

それでは、続きまして議事の2つ目「第2次網走市大空町定住自立圏共生ビジョン(たたき台)」平成28年4月策定のたたき台について、事務局から説明をお願いします。

(高井課長)

まず、はじめに、「第2次網走市大空町定住自立圏共生ビジョン」の策定にあたっての基本的な考え方を説明させていただきます。

今回の懇談会と次回、11月に予定しております懇談会での検討を踏まえ、「ビジョン案」を作成し、市民・町民のみなさまを対象にパブリックコメントを行います。そこでの意見を参考に、最終的に事務局でビジョンを作成し、来年4月に公表するこ



とを予定しております。

それでは、各章ごとに説明させていただきます。

第1章につきましては、定住自立圏構想と圏域の将来像が記載されております。本ビジョンの計画期間は、平成28年度から平成32年度となっており、この部分は大きな変更がない限り、5年間変更をしないものとなっております。

第2章では圏域の概況と現状が記載されておりますが、計画の基礎となる統計データなどを更新するほか、計画の進捗に即した形で現状と課題について修正を加えております。

第3章はこれまでの取組状況と今後の方向性ですが、現ビジョンでの取組の結果などについて記載しております。この章は、先ほど座長からもご説明がありましたが、今回の第2次ビジョンから新たに加えた部分となります。

続いて、第4章では、協定に基づいて推進する25項目の具体的取組が記載されております。

また、第5章は、第4章で掲載しております具体的取組と関連した個別の事業一覧となっております。

なお、第4章、第5章の各事業に係る予算額についてですが、現在、来年度の予算編成作業前ということで、空欄とさせていただきます。平成28年度予算成立後に数字を記入したいと考えています。

以上、「第2次網走市大空町定住自立圏共生ビジョン（たたき台）」の説明をさせていただきます。

（長澤座長）

これは事前に送付させていただいて、お読みいただいているということで詳細な説明ではなく各章ごとのポイントをお話いただきました。

このたたき台に関しまして、各分野の立場から地域の色々な問題についてご意見をいただければと思います。本当に様々な分野、地域の生活・産業全てにわたる分野の関係される方々が集まっていますので、情報共有ということも含めまして色々なご意見をいただきたいと思います。その意見を踏まえながら、網走市、大空町それぞれ持ち帰りまして担当部署で検討して、広域的な取組として課題解決を図るという形で事業として共生ビジョンに記載するというのも含めて考えていますが、委員の皆様から忌憚ないご意見ご質問等をお受けしたいと思います。どこからでもどうぞ。

（高井課長）

1点よろしいでしょうか。

本日欠席された網走厚生病院の藤永委員からご意見をいただいておりますのでご紹介させていただきます。

ビジョンたたき台の13ページ、圏域の現状と課題の医療の分野について、「網走

地域自治体病院等広域化・連携構想検討会議において、網走市、大空町も含め、幅広く医療と介護の連携について、講演会や実務者会議等も活発に開かれ、顔の見えるシステム作りが行われている」と現在の活動を評価されるご意見をいただいております。

(長澤座長)

医療に関しましては、この2つの町と市だけではなく広域的な連携構想検討会議で取り組まれています。女満別中央病院の服部委員さんいかがでしょうか。

(服部委員)

毎年、救急医療について網走市と大空町で協議会が開かれており、それに加えて斜里の方の救急も加わったという状況です。網走の協力は女満別として非常にありがたいです。

(長澤委員)

医療関係から入りましたが、医療関係以外の方からもこの機会に医療に関係して何かありましたらお願いします。

(乾委員)

農業関係ですが、以前、東藻琴の「Aコープ」は農協が運営していたのですが、現在は、ホクレン商事という会社に運営を委託している。今のところはこれで成り立っているが、将来に渡って可能かという先行きが不透明です。このAコープがなくなると東藻琴地区にはセブンイレブンとかセイコーマートとかあるのですが、多くの住民が年を召されていますので、出てこられない町民の方を回って物を売るサービスや届けるサービスが、まだ先のことだと思いますが、現実には高齢の一人暮らしの方が増えている、網走の郊外の方も同じだと思いますが、網走はまだかなり店があるが、東藻琴地区でいうとそういう問題があるので何か考えていかないと大変になると感じています。

(長澤委員)

実際に網走も中央商店街から店が無くなって「BASIC」まで買い物に行くのが大変、まさに買い物難民という車がなければ川向かいに行けない。街にお年寄りを住まわせて商店街は全部郊外という問題もある。ましてや農村地域だともっと大変になってくる。コープあたりは「トドック」という宅配サービスもあり、全国的にも広がっているが、コストがかかり、お年寄りの一人暮らしは大変です。生活インフラも一つですが、生活の利便性を高めていくということで、ビジョンにどういう形で盛り込むか、いつの時点で盛り込むか、一定の方向性を早晚つけなければ、人口減少問題のようになってしまいます。事務局でも検討いただきたいと思います。

(高井課長)

乾委員の意見のとおり買い物難民については、網走市でも懸案事項としても捉えており、策定中の総合戦略の中でも「高齢者の方が住みやすいまちづくり」ということで色々な取組を検討していますが、買い物支援対策ということも取り組もうと内部で検討しているところです。

(林参事)

暮らしの根幹にかかわる問題と捉えており、特に高齢者の足の確保については、重要な課題として考え、外出支援タクシーを試験的に運行しているところです。また、宅配サービスについても今後検討していかなければならないと考えています。

(長澤座長)

住民の足の関係で網走バスの明神委員いかがでしょうか。

(明神委員)

今回、23から24ページにわたってこれまでの取組というところでコミュニティバスに関しても書かれていまして、西山通り線にコミュニティバスを走らせているのですが、ほぼ計画通りに乗車人数がある状態です。ただ、17ページに書かれているように地方のバス路線はなっています。これに加えて乗務員の高齢化や成り手不足という問題も大きくなってきています。当社では、30代の運転手は5人もいないのですが、40代以上が60名以上ということで、非常に成り手もないという状態です。そういったことを解消するために、新卒の高校生を採用し3年かけて運転手になってもらおうという取組も行っているところです。

コミュニティバスについて先ほど目標通りと申し上げましたが、この目標が1日20人、バス1台当たり2人程度です。こちらに関してもハイエース型のワゴン車を使った小型バスへの切り替えも進めており、今月中には走らせられるかなというところ です。

今後の方向性というところで、39ページ、事業概要の「地域公共交通活性化再生法の改正により・・・」という部分が新たに追加になった部分だと思うのですが、「コンパクトシティに対応した・・・」とあり、今回、まちづくりと連携したと明記されたところが一番の違いとなっています。今後も網走市でも今月から都市計画のマスタープランの策定が始まるということで、今回の圏域と網走市が策定する都市計画マスタープランの中のコンパクトシティの範囲はどうなっているのかがよくわかりません。

本日はいらっしゃっていないのですが、網走観光交通さんとも連携した上で広域の

中で都市計画とも整合性を持った形で進めていければと思っています。

(長澤座長)

前段のところは色々ありますが、先に39ページの件について事務局いかがですか。

(高井課長)

明神委員からお話のありましたコンパクトシティについてですが、網走市の考え方としては中心市街地に全てを集めてコンパクトにするというイメージではなく、地域にある拠点をコンパクトにしていきそれを公共交通で結ぶというものです。そういった中で具体的な事業を検討していきたいと、総合戦略の中でもそう記しています。

(林参事)

大空町につきましても同じような考えを持っていて、市街地に一極集中するような形ではなく、農業を主産業としている町なので、それぞれの地域の人口密度などの対策を考えていくところでもありますので、そういった点での交通ネットワークの確保が大切だと考えています。

(明神委員)

前段に何もなく、コンパクトシティという言葉が突然出てきている感じがします。

(長澤座長)

文脈的に唐突感があるかもしれない。富山市のような路面電車をつなぐという地域特性があるわけでも、人も農地も全部集約するわけではないので事務局で検討をお願いします。

バス会社さんは、安全性確保の問題で運賃が大きく上がりましたね。

(明神委員)

貸切バスですね。

(長澤座長)

農大のスクールバスもリタイアした方を雇っています。成り手がいないのだと思います。

交通インフラだけではなく生活全体にかかわる生活路線バスということも。

これに関して観光についてはどうですか。

(深川委員)

観光については30ページに記載があり、「外国人観光客の誘致」、「女満別空港を活用した誘客」などがありますが、空港を利用するのが観光ではないと思います。一番問題なのは、訪問するための目的地、目的の施設がなければ意味がない。そういった場所に力をいれなければチャーター便を誘致したところで非常に厳しいと思います。

もう一点が北海道の場合、1市1町の定住自立圏はこの地域だけですが、全国的には10か所ほどある。明日から1市1町の定住自立圏を組んでいる熊本県の八代市と氷川町に視察に行くので参考意見なんかも聞きたいと思っています。

私も1回目から懇談会に参加させていただいていますが、やはり成果というか結果を求めるとするのは難しいと思いますが、データのものはそれぞれみなさんをご承知で、少子・高齢化についてもほぼ内諾していると思います。問題はこれからどうするかということが一番肝心なことだと思います。何年もやってきて、ある程度の成果を出さないとならないと思っています。

観光については、世界自然遺産を持っている斜里町と何らかの形でコンタクトを結んだり、どこまでも網走市と大空町だけでやるのか、そういった魅力的なものがあるのであれば、他町村も参加するという形も必要ではないか。個人的には斜里町とコンタクトを取っています。

(林参事)

空港の利用につきましては、特に観光と合宿ということが考えられるのかなと思います。観光については、ただ見ていくだけではなく体験型・滞在型の観光に結びつけていくような施策を展開していくことを考えていく必要があると思います。合宿については、昨今、ラグビーのワールドカップが盛り上がっていますが、主として網走市さんで取り組まれていますのでそういったことについても推進していきたいと考えています。そういった中で交流人口の拡大ということも進めていきたいと考えております。

また、観光は網走市と大空町だけの圏域の問題ではないと考えておりまして、定住自立圏の圏域外の市町村との連携も大切だと考えております。

(長澤座長)

管内には観光連盟がありますがどうでしょうか。

(深川委員)

東藻琴の観光協会は行政におんぶにだっこというのが主で、主体的な事業はほとんど行政がやってくれる。それに付随してやっている観光事業を観光協会が行っている。自立して予算がついているような他の観光協会と異なる。圏域での共生ビジョンも大切だが行政と密着して行っていくことも大事かなと思います。

例えば、網走市の呼人には素晴らしい球場がありますし、大空町にも公式戦を行えるだけの球場を整備しているところであり、そうなれば6大学野球も呼べる環境にある。それを観光に結び付けられると思う。観光だけ、スポーツだけということではなく、そういったものを連携されていかないと地域間競争を生き抜いていくためには難しい。観光、観光と言ってもなかなか素材が限られているので、知恵を出し合っていないといけないと思います。

(長澤座長)

観光サイド以外の方、教育、産業分野の方など、今の観光のお話について、ご意見なり、日頃感じていることありませんでしょうか。

(本間文委員)

大空町の場合は、ビジョンたたき台の後ろの表にも出ていますが、観光入込客数が増えても宿泊者数が減っている。ということは、網走や北見などに宿泊施設が次々とできていっているのと、滞在型、合宿などそういうことで頑張っているのですが、やはり、滞在型の観光客を呼ぶということはその町に居てもらわないといけない。自主努力だけでは難しいので、そういうところで共生ビジョンをどういうふうに考えたらいいかと強く感じている。大空町について、そういう意味で危機感を感じています。

(長澤座長)

網走市では合宿誘致に取り組んでいるが、冬場の集客問題などもある。

どうしても阿寒、川湯、知床に宿泊して、網走は通過型と言われる。そういう意味では、空港も観光も食事もあるけど通過型になってしまう。

今、本間文委員がおっしゃったように関係者の自助努力だけではどうにもならないという部分も大きいかもしれない。だからといって全てを行政でというのではなく、どんな知恵を出し合うのかというのが、この共生ビジョン懇談会で少しでもヒントが出ればいい。もちろん今すぐヒントが出るわけではないと思います。何らかの知恵なり工夫を出していかないといけないという状況です。

これに関して、ご意見はどうですか。

(大泉委員)

12ページの女満別空港の利用者数がありますが、これは飛行機に乗ってきた人の数だと思いますが、この中からビジネスの方を抜いて観光で来てる方の数というのはわかるのでしょうか。そこを狙ったビジネスをしていかないと宿泊数も増えていかず町も衰えていくのではないかと思います。

2万人くらい観光で来る人がいれば、その2万人をどう大空町で、網走市でつかん

でいくのかが重要だと思います。

(長澤座長)

この12ページのデータで純粹に観光客の抽出というのはできるのでしょうか。朝一便などはほとんどビジネス客なのかと思いますが。

(林参事)

利用者数の数値につきましては、あくまでも飛行機に乗っている方の数ということで、どういう利用目的で乗られたかまでは把握ができていない状況です。

(乾委員)

観光も1つの方法だと思いますが、一番考えるのはこの高校を卒業した子ども達、あるいは出身の子ども達が帰って来る場所がない。ここは水産、農業がありますが、2次加工、3次加工する企業を誘致しないと人は減っていく一方になります。

私の子どもは4人いて、1人は後継者として帰ってきたが、他の3人は帰ってこられない。帰る場所、職がきちんとある、若い人がいなくて困っているというのもわかるが、そこがマッチングするかどうかという話。その対策を早めに仕掛けていかないと間違いなくまだまだ人口が減っていくと思います。

網走市は今度、日体大特別支援学校が開設されますが、東京農大もそうだと思いますが、ほとんど90%以上が道外から来て卒業後は帰ってしまう。農協も農大生を採用しようと学生に話をしてみても「地元に戻る」という話になる。

地元出身の子どももここじゃ物足りないから札幌に行くという。

J Aでも人材を求めるために札幌の北海学園大学とか北星学園大学とか色々なところに何回も募集をかけて網にかかった人を連れて来るような状態。

この辺が1つの問題点なのかなと思います。

(長澤座長)

観光も1つの産業で、雇用吸収力もあるが、地域で生活していく上での最低限の仕事、所得を上げられる場が必要。

農大の学生も卒業後、網走に居たいというが、市役所、J A、信金とか就職先が限られてしまう。そうすると道内に残っても旭川や札幌に行ってしまうたりする。おしい。網走市で4年間過ごして残りたいという学生が結構いるのだが。

農大入学者の93%は都府県出身ですが8割以上は帰ってしまう。

にぎわいのある町だと観光の拠点としても注目される。この前、学生と富良野マルシェに行ってきたが、富良野は2万3000人の人口だが、近隣の美瑛町などロケーションがいいが、北の国からの関連施設も含めて、観光客は年間200万人。そもそも冬のスキー場が観光の主だったが、最近は冬の観光が落ち込んで、マルシェ、北の

国からのロケ地、美瑛の丘陵地とリンクして取り組んでいる。

やはり仕掛ける人、マルシェをつくった石田さんという札幌都市開発公社の方、プロモート出来る人材が必要。網走にも人材はいるが、ばらばらになっているという感じがする。せっかく2つの市と町が医療から福祉、教育、産業と色々なジャンルが集まっているので、そこで、この場の議論も一方通行ではなくて、観光など色々な問題を皆さんから意見を出し合うということで様々な知恵なりアイデアが出ると思う。

乾委員がおっしゃったような話、地方創生や総合戦略の特効薬となるような解決策はなかなかでてはこないが、ただ、手をこまねいて待っているわけにはいけないので、少しでもビジョンに盛り込んでいけるような中身を皆さんで知恵を出し合っていきたいと思います。

(本間副座長)

観光に関して、全体の数%である外国人観光客誘致が中心となっていて、圧倒的な人数である国内観光客が伸びないとこの地域は盛り上がらない。外国人の話ばかりで国内の話があまりないように感じる。

12ページのところで、平成24年から網走の観光客と女満別空港の利用者数が増加しているがその理由はわかりますか。

(高井課長)

東日本大震災からの復興需要もあるのではないかと思います。

(長澤座長)

東日本大震災で東北の需要が落ち込んだ半面、北海道、沖縄、九州の需要が増えたというのも理由の1つではないか。大学生の入学希望も同じかと思います。

(本間副座長)

もう1点。先ほど買い物難民については盛り込むということだったが、私は福祉分野が専門だが、高齢者にとって、冬の除雪対策が大きな問題だと思います。現在も、それぞれの市、町で対策が取られていると思いますが、最近の暴風雪への対策も福祉サイドではなんとかしないといけないという課題になっているので、どこかに盛り込むことが出来ればと思います。

(長澤座長)

教育分野はいかがでしょうか。

(本間文委員)

この定住自立圏懇談会の中で話が出ているのは図書館と文化ということで絞られ



ている。文化会館でボランティアをしているので、網走市から参加される方も多いで  
すし、大空町からも網走市のエコーセンターに来て利用している人も多いと思いま  
す。ただ、公共の足、網走交通さんからも話がありましたが、やはり高校の足はこれ  
から4校がどうなっていくのかということも、今後10年間で変化があるのかもしれ  
ないが。

教育部門ではどこまで入り込んでいいのかと思うことがあります。ビジョンの中  
ではあっさりとした書き方になっていて、今後については色々な施設を共有して  
いくということも必要なのではないかと思います。

図書館の連携というのは非常に良いと思いますが、教育委員がこの場にいたら  
どうい話ができるのかなとこの2年感じています。

(長澤座長)

高校4校が、子どもが減っていく中で、この先どのようになっていくのかという  
ことは、足の話はアクセスをきちんとする、マッチングするというような色々な  
話でしたが、今度は子どもの数が減っていて高校そのものの存立に関わってい  
る。交通の足だけの話ではない。

(深川委員)

今、大空町には道立と町立の高校2つがありますが、今後は2校が単独で存続  
するのはおそらく困難ではないかと言われている。アンケートなど調査を始めて  
いるところ。網走も含めて、あり方を検討していかなければならないと思いま  
す。

(長澤座長)

美幌や東藻琴の高校に網走からも結構通っている生徒がいる。  
ただ、美幌農業は合併されてしまう。

(深川委員)

小清水高校の募集停止は決して他人ごとではない。  
女満別高校は道立高校なので、町の意向が全て通るわけではないです。

(長澤座長)

網走市のように道立高校と私立高校が合併した例もある。  
そのへんは住民の意向を踏まえて超法規的な形でも、子ども達を育てる拠点に  
もなる。

(乾委員)

高校の話になると難しい。東藻琴高校は定時制の農業科なので、存続してほ  
しいと

いう気持ち強いが、実際は網走から相当数通っているので利便性だけ考えると網走の桂陽高校や南が丘高校に1学級増やせば吸収できる。ただ、東藻琴は農業高校という位置づけがある。

(深川委員)

定時制課程という位置づけもある。

(長澤座長)

今の議論はビジョンそのものに記載するという事は厳しいかもしれませんが、この懇談会の中で意見や情報を交換していくという形にしましょう。

(高橋委員)

医療の分野では厚生病院に色々と助けていただいているので、今後とも続けていただきたい。

ゴミの関係では、女満別も埋立地が計画段階より早い速度で進んでいて、網走市も埋め立て地の計画があるようですが、こういった中で広域化できないのか議論すると早いのかなと思います。

(林参事)

ゴミの関係につきましては、大空町では網走市以外の自治体と広域化などの検討を進めているところです。

(本間副座長)

網走市はゴミの関係はどうでしょうか。

(高井課長)

網走市は新しいゴミの処分場が完成予定です。ゴミの広域化については持ち帰って担当課に確認させていただきます。

(深川委員)

時期的なものも経過していますが、定住自立圏は総務省が言うように地方再生と地域力創造が目的で作られている制度であり、目に見える結果が作ってもらいたい。難しいことだと思うが、立場的に説明が求められており、5年間何をやってきたのか、ただ議論していましたがということにはならない。

1つでも形になれば新聞などにも報道されるだろうし住民への周知にも繋がる。

(成瀬委員)

定住自立圏は私たちも含めて、この圏域に住み続けたいと思うということが基本なのかなと思いますが、皆さんの意見を聞いていて、学校の問題にしても観光の問題にしても、こういう意見が出たということで各市町の担当部署に上がっていくのでしょうか。上がっていくことによって変更なり、進めていくんりの対応がとられるのか。

提言ということになるかは別として、情報が上がっていかなければ高校の問題にしても、住むということは教育が一番の問題と考えていますので、学校問題は非常に大きな問題です。

この委員の中には社会教育委員は入っているが、社会教育委員は学校教育について意見を言える立場ではないので、教育委員の方もこの場に入ってはどうかと思います。

(長澤座長)

基本的には、医療、教育、産業などの各分野からそれぞれの委員の皆様からどんどん意見を出していただいて良いと思います。財源の問題などもあり、いただいた意見全てをビジョンに掲載するということは難しいと思いますが、それも含めてこの懇談会でビジョンを検討するわけですので、委員の皆さんがそれぞれの持ち場で検討していただいて、また、この場で意見を反映させていただくということで良いのではないのでしょうか。

委員のメンバーに学校教育が抜けているという点についてはどうでしょうか。

(深川委員)

当初は農協も漁協もメンバーに入っておらず、基幹産業である農業、漁業の関係者が入っていないのはおかしいということで、メンバーを追加した経緯もある。

(長澤座長)

修正がきくのであれば、両市町から学校教育分野の委員を追加することも検討してはどうか。

(高井課長)

基本的には、教育は市、町それぞれで行っており、学校同士連携して何かを行うということは想定できないとの考えで委員の選定を行っていません。一方、社会教育分野については施設の相互利用など連携しやすいとの考えで委員に入っています。

(長澤座長)

これはネットワークですから、学校教育の立場から子ども達の医療、観光、地域の産業、後継者を考えるということも、交通インフラについても通学の確保などもある。

この件については事務局にお任せします。

(乾委員)

補助事業があるというお話ですが、どのような事業が採択されたとかどのような効果があったなどありますか。

(長澤座長)

深川委員から指摘もありましたが、どういう成果があったか。

例えば42ページの「オホーツクものづくり・ビジネス創成塾」はこの枠組みで補助金をもらっている。この補助がなく農大が全部自前でやるのはとても難しい。事務局でそういう成果を整理してみなさんにお示しできる形にしておいて下さい。

(事務局)

第4章以降に掲載されている事業の総額のうち、中心市には8,500万円、周辺町には1,500万円国から特別交付税が総務省から措置されています。

(深川委員)

観光の分野で斜里町と連携していこうという動きがある。

(高井課長)

市でも地方創生総合戦略の策定にあたり、網走市・大空町に加えて斜里郡3町と広域的な取組ができないか首長会議を立ち上げ検討しているところです。

(長澤座長)

全体を通して何かございませんか。

会議終了後、議事録を配付いたしますので、何かありましたら事務局の方へお伝えください。

それでは、議事2についてはこれで終わりたいと思います。

議事3「今後の懇談会の進め方」について、事務局から説明をお願いします。

(高井課長)

それでは説明させていただきます。

掲載しております統計データにつきまして、9月中にまで発表される予定のものにつきましては、それぞれ更新予定であります。

今回いただいたご意見につきましては、それぞれ網走市、大空町にて担当部署に周知させていただきます。次回の懇談会にて、その状況をご説明させていただき、合わせて、共生ビジョンの修正案をお示ししたいと考えております。これらを踏まえ、

前回ビジョン策定時と同様に平成28年1月を目途に市民・町民の皆様を対象にパブリックコメントを行う予定でございます。

その後、パブリックコメントでいただいたご意見を参考に、新ビジョンを策定いたします。

(長澤座長)

今の進め方についてはよろしいでしょうか。

次回は11月に予定をしております。

その他、委員の皆様から何かございますか。

それでは事務局から何かありますか。

(高井課長)

事務連絡でございます。

次回の懇談会につきましては、先ほどの説明の中でも申し上げましたが、11月を予定しております。時期が近くなりました時点でご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、委員の皆様には、懇談会ご出席にあたり、報酬と交通費を支給させていただいております。報酬等につきましては、次回懇談会分も含め、まとめてお振込させていただきますので、ご承知おきください。

事務連絡は以上でございます。

(長澤座長)

今、色々な分野で日本や世界が揺れ動いています。先行き不透明感が漂っており、色々な形で日常生活の足元を固めていくことが難しい状況です。こうした中で様々な分野の方が一堂に会して問題点などの意見交換ができることは有意義だと思う。

将来に色々不安があるかもしれないが、2つの市町の住人がここに住んで良かった、ここで最期を迎えて良かった思える地域の、圏域のあり方について意見交換とビジョンの策定に取り組んでいきたいと思っております。

それでは以上で終えたいと思っております。みなさんどうもありがとうございました。